

長泉さわやかハイキング報告書

通算山行NO	NO・95	報告者	井上 弘二郎
年 月 日	2010年11月21日(日・晴)	2万5千	七面山
山 名	山梨・七面山(三角点:1982m、最高点:1989m)		
体力度=4・やや厳しい ある	技術度=3・普通	藪漕=無し	道標=ある トイレ=ある
展望度=最高	三角点名=七面山	等級=二等	
歴史的な修験者の道、身延山・奥の院「敬慎院」			
コース とタイム	下土狩駅5:00—農協5:05—富士川「道の駅」6:00—羽衣発7:20—先行隊登頂10:30—おっかけ隊登頂11:00—先行隊下山開始11:30—おっかけ隊下山開始11:50—裏参道鳥居14:55—ひのや旅館(入浴・休憩)15:00~16:00—長泉18:00頃		
標 高 差	上り 羽衣橋(白糸滝)約500m~七面山(最高峰)1989m+30m=約1519m 下り 七面山1989m~角瀬約300m=約1689m		
参 加 者	CL後藤隆徳、伊藤従人、渡辺正巳、永尾広、河野光江、村上充彦、村上美恵子 峰田光江、井上弘二郎、鈴木恵美子、西原京子、増田真理子、佐々木和雄、村山忠彦、天野和子、安藤智章(一般参加)合計=16名		

バスは夜明け前に出発し、満月が西の空に輝いています。山の麓、角瀬に入ると、大型バスがたくさん停まっており、白装束の修験者が大勢います。まるで修学旅行の京都の賑わい。その先の羽衣橋手前でバスを降り、各自トイレと出発準備。羽衣橋から白糸滝が見えます。丁度よい紅葉に囲まれ、滝が絵になります。参道に入ると、「〇丁目」と書かれた灯籠のようなものがあり、元丁目から始まり、1丁目、2丁目と次々と現れます。だいたいこれでどのくらい来たか目安になります。

登り始める前から、山のどこかで、お経が聞こえます。太鼓の大きな音、お経の良く響く声、神聖な場所に来たと実感します。(思わず、報告書の文体もいつになく丁寧になります。)



若い信者さん



肝心坊

参道は幅広く、階段になっているところも段差が低く、全く疲れを感じさせません。どうもいつもと違うのは、一般の登山者がほとんどいないからでしょう。すれ違う人は、皆、修行の方のようで、「御苦労さま」と声をかけていらっしやいます。こちらがかしこまってしまいます。一般登山者かと思ったら、首に数珠を掛けていたり、手に太鼓を持っていたりします（どうも、調子狂うなあ）。途中、高校生の1クラスのような団体もいて、お経を唱え、境内を掃除していました。若いのに感心します。

表参道 50 丁目の敬慎院を右手に、通り過ぎ、ケーブル車終点駅を過ぎ、笹原の中を歩く。ここからが、いつもの登山らしくなった（文体も気分に合わせてます）。気持ちのよいアップダウン、自然の山の地形で歩くほうがやっぱりいい。ふと左を見れば、すそ野を見事に広げ、吹き飛ばずにわずかに残った雪がきれいな富士山があり、しばし見とれる。無線で、先行隊が 3 時間 8 分で三角点に到着し、最高点に向かうとの連絡が入った。1500m の標高差を約 3 時間で登れるとはすごい。エアリアマップでも休憩なしで 4 時間 10 分のコースタイムだったので、今日は、休憩含め 5 時間を覚悟していた。こんなスピードも道次第ということだろうか。空気は丁度良く冷たく、歩けば汗をかく。立ち止まっても寒くなく、天気も良い、景色も良い、よいよいづくめだった。頂上に着くと先行隊の 10 人は食事を終わり、寒そうにしていた。おっかけ隊で三角点より 7 m 高い最高点を空身で行こうとしたが、分岐点が分からず戻ってきた。12 時下山開始とのことで、のんびりしていたが、先行隊はもう下山したくてたまらず、やはり先に下りることになった。リーダーより 2 万 5 千 円をもらい、後発隊の先頭を歩いた。地図があれば安心して歩くことができる。



大ガレから富士山



敬慎院

敬慎院を訪ねた。正面の門をくぐり、振り返ると、富士山が門の中に丁度入り、額縁のようだった。そこから本堂までの下り階段は直径 60cm ほどの木の切り株が敷かれていた。階段は下りるほどにだんだん幅が広がる。本堂の前まで下りて振り返ると、この階段が末広がりに見え、あたかも富士山を見ているようだ。門の中に見える富士山にそのすそ野が一体となるのではと思ったが、それは分からなかった。富士山、山門、階段、本堂、これらの配置が緻密な計算の上に成り立っていると思うと、ぞくぞくする。ダン・ブラウン

の小説のダヴィンチコードを読んでいるようだ。(余計な感想でした。) 一見の価値ありです。来てよかった。日蓮宗がなんたるかは全く知らずに入山したふとどき者ですが、ご容赦ください。

周囲の地形を確認し、尾根、谷、小ピークと地図と照合しながら歩くと安心して進める。奥の院までは林道のような道だ。奥の院もとても趣がある。本堂の建材はとても枯れており、年月を感じる。お茶を頂く。本堂からガラスが響くほどの大きな音で太鼓が鳴り、お経が始まった。本堂脇をすり抜け、裏参道を下る。落ち葉が多く、その下の石や木の枝が隠れ、ときどき足を滑らす。ほぼ同じ傾斜でペース良く歩くことができる。後発隊の6人はとても脚がそろっており、歩く調子がいい。下りでは右手に富士山を楽しむ。大きなトチの木が祀られていた。登りも下りも調子良かったが、最後の1時間弱は疲れてきた。膝、股関節が痛くなり、我慢しながら歩いた。(一応、後発隊のリーダーということで、何でもないうようなふりをしていた。) 下りの裏参道でも〇丁目の表示があり、徐々にカウントダウンをしていくので、自分の位置がわかり気持ちも楽だった。最後は赤い鳥居をくぐり、角瀬に到着。

ひのや旅館で温泉につかる。疲れがお湯にとけるようだった。風呂上りにビールを頂く。至福の時間だ。あー、生きててよかった。

そして、帰りのバスに揺られ、やがて日が暮れ、東の空にまた満月が現れた。計画より2時間早く長泉に到着した。



大師の駕籠

